

## ひらつか青指だより



編集・発行 平塚市青少年指導員連絡協議会 広報委員会 ■事務局 平塚市青少年課 〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9-1 TEL 0463-71-5950 FAX 0463-21-9738

## 中原地区おばけやしき

笑顔がいっぱい  
子ども大会

子ども大会は、明るい家庭づくり、地域づくりを目的に、家族ぐるみで楽しめるスポーツやゲーム、野外活動、その他レクリエーションなどの内容で、毎年市内28小学校区にて開催されています。青少年指導員を中心に、地域の諸団体の協力を得て実施し、昨年度は4,399人の子どもたちが子ども大会に参加しました。多くの子どもたちから楽しかったという声がかげました。今年度も子ども大会の開催が予定されています。この号では、4つの地域をピックアップしてご紹介します。小学校区で開催される子ども大会への参加をぜひご検討ください。



## 旭地区ミニレク大会



## 神田地区ドッジボール大会



## 松原地区ゲーム大会



■子ども大会(詳細)・参加方法について 各地区子ども大会実行委員会より自治会や学校等を通じてお知らせしています。

# 松原地区

## ■楽しかった 松原ゲーム大会

6月8日、子ども大会としては久しぶりになるゲーム大会を松原小学校で開催しました。

参加者は低学年から高学年までを均等に組み合わせたチームに分かれ、体育館と校庭に配置した各ゲームをチーム毎に回って得点を重ね、最後に全チームと一緒にリレー形式のゲームで順位を競う流れです。大会当日は晴天に恵まれたこともあり予定していたプログラムを全て行うことが出来、また参加した子ども達から「楽しかった」の言葉を多くもらえて大成功でした。

松原地区は6月に運動系のイベントとして行う子ども大会と、秋に行う子どもフェスティバルと名付けた工作系のイベントの二つを年間活動の中心に据えています。昨年は準備の都合もあって12月に工作系のイベントを子ども大会として開催したので、6月に運動系のイベントを子ども大会として行うのは実に6年ぶりになります。

現在の松原地区指導員10名のうち6年前からの在籍者は4名です。更にゲーム大会を複数回経験しているのは2名しかおらず、先ず思い出すところから始まったのは言うまでもありません。主催する指導員側のゲーム大会未経験者や新任者に内容を把握してもらうため最初の打ち合せで過去プログラムの流れを追いましたが、特に写真や映像等の記録が無く言葉だけの説明で理解してもらえたかは不安要素でした。また備品の在処や必要な機材の借り方が引き継げておらず、代表が時間を割いて退任者から聞き取る等準備段階での苦労も多くありました。毎年やっているからとか、一度に指導員が入れ替わったことが無かったからとかで過去引き継ぎが疎かだったことは反省点です。



しかし入れ替わりは悪い事ばかりではなく新たな気付きもありました。今回の子ども大会サブタイトルは「松原ゲーム大会」ですが、中断前は「松原フレンドパークへようこそ」と題していました。旧サブタイトルの着想は勿論あのTV番組ですが、事前打ち合わせで今時の小学生はあのTV番組を知らないだろうとの意見から「松原ゲーム大会」とサブタイトルを変えました。長く続けていると気付かない(気にしない)ことも多いので、今回入れ替わりという新陳代謝で気付かされた一例です。

長い中断期間を経てようやく松原地区子ども大会を本来の形で開催出来ましたが、改めて思うのは一緒に活動している仲間だけではなく、協力して下さる人達や見守って下さる人達も我々の力です。

お手伝いのメンバーを出してくれたPTAやいつも気にして様子を見に来て下さる先生方にもお礼申し上げ振り返りの結びと致します。

お手伝いのメンバーを出してくれたPTAやいつも気にして様子を見に来て下さる先生方にもお礼申し上げ振り返りの結びと致します。

# 中原地区

## ■たくさんの悲鳴が おばけやしき

6月1日(土)中原小学校体育館で「第54回中原地区子ども大会」を開催しました。

中原地区では、例年「おばけやしき」を行っています。

これまでは、小学校の教室、

廊下を使用して作っていましたが、今年は初めて体育館を使用して「おばけやしき」を作りました。

今回、体育館に変更したため、コースレイアウトや体育館だからできることを青少年指導員のメンバーで話し合いました。メンバーからは次々とアイデアがでて、始まる前から我々が楽しんでしまいました。

また、今年は、青少年指導員の負担を軽減し、もっと青少年指導員も子どもたちと楽しみたいと考え、大きく2点変更してみました。

1点目は、事前に参加児童数の把握をしないこととしました。児童に子ども大会の案内を配布後、参加人数を把握するための参加希望票の回収をやめました。その代わりに、子ども大会実施1週間前にもう一度周知するためと学校への登下校時の安全注意の案内を配布しました。

2点目は、QRコードによるボランティア募集です。子ども大会実施には、保護者や地域に方々等の協力がか





かせません。そこで、Google フォームを活用してボランティア募集(おばけキャスト、裏方スタッフ、準備、片付け)を行いました。

今年は、いろいろと初めてのことにトライしながらの子ども大会でしたが、結果として参加者は、小学生 325 名、未就学児 47 名、関係者・保護者 123 名の参加があり、昨年を上回る参加者でした。おばけやしき会場では、おばけの迫力に泣きだす子、たくさんの悲鳴が聞こえたり、子どもの様子をやさしく見守る保護者の姿などを見ることができました。

今回、青少年指導員の負担軽減を目指し子ども大会を実施することはどうなのか?との考えもあった中で実施しましたが、これまでと同様に、子どもたちの笑顔はそのまま実施できたのではないかと感想です。ただ、一部のスタッフに負担がかかってしまった反省点があります。今後も実施方法について検討しながら「子どもたちの笑顔」を第一に、地域で楽しいイベントにしていきたいです。

最後に、今年度の開催にあたり、全面的にご協力いただきました、中原小学校、準備、当日、片付けと子どもたちの笑顔のために協力していただきました各地域団体さま、保護者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 神田地区

### ■ドッジボールが大好き ドッジボール大会

やっとコロナ禍における行事の自粛が収まり、地域において様々な行事ができるようになりました。神田地区も令和 4 年度まで子ども大会を中止していましたが、令和 5

年度より子ども大会を開催しています。神田地区では、毎年『ドッジボール大会』を開催しており、過去には、隣同士並んでいた相模地区の青少年指導員と意気投合し、合同でドッジボール大会を開催したこともありました。子どもたちも体育の授業や休み時間にもドッジボールを

しているとのことであり、みんなドッジボールが大好きです。

今年は、6 月 22 日に子ども大会を開催しましたが、やはり梅雨どき、1 週間前の週間天気予報では 2 日前まで雨マークでしたが、前日になって晴れ予報に変わり、当日はドッジボール日和となりました。これも子ども大会に対する子どもたちの想いが、雨を吹き飛ばしたのだと思います。

当日は、1 年生から 6 年生まで 169 人の子どもたちが参加しました。全校生徒が 402 人なので、約半分の子供たちが参加したことになります。チーム編成は、1、2 年生、3、4 年生、5、6 年生で各 5 チームを編成し、5 チームで総当たり戦を 3 コートで行います。試合が始まると、グラウンドに元気一杯、たくさんの声が響き渡ります。さすがに高学年は、球のスピードも速く迫力があります。低学年では、球に当たって泣いてしまう子もいましたが、みんな夢中になって、ドッジボールを楽しみました。試合を待っている子も、勝敗表とにらめっこして自分のチームの順位を確認したり、試合を観て応援したり、一時も休んでいる暇はありません。一緒に来ていた保護者の方々も、自分の子どもの試合を応援していました。

楽しい時間は、過ぎるのが早いもので、あっという間に閉会式。成績発表を行ない、優勝チームには賞品を授与、全員に参加賞を配りました。

神田地区では、今後もドッジボール大会を開催していこうと思っています。それは、「神田地区の子ども大会といえば、ドッジボール。」と根付いて欲しいと思っているからです。

最後に、妻が私に言った言葉をご紹介します。それは、お昼頃買い物で出かけていた妻が「子ども大会が終わって、家に歩いて帰る親子を見かけて、その姿がずっと笑顔で楽しそうだった。それを見て何だか嬉しかった。」と言ってきたのです。私は、それを妻から聞いて疲れがスーッと消えたのと同時に、本当に青少年指導員をやっている良かったなと思いました。



# 旭地区

## ■最初から最後まで楽しい ミニレク大会

今年度は、参加人数の増加を図るべくまた低学年から高学年まで皆で楽しめ、且つお互いに協力し合えることを狙って、コロナ禍前同様に複数のレクリエーション競

技を実施した。

具体的には、じゃんけん列車、ボール送りリレー、サイコロスプーンリレー、また旭地区を題材にした〇×クイズを実施した。結果として、昨年度から大幅に参加者は増加し、より多くの児童が参加してくれた。

また、いずれの競技においても参加してくれた児童全員が飽きることなくとても楽しんで積極的に競技に取り組んでくれたことが、一番の収穫であり、嬉しかったことである。

アイスブレイクとして実施した最初の競技じゃんけん列車では、狙い通り、児童たちは遠慮することなくじゃんけんを実施しお互い打ち解けられたと感じた。また、優勝者の名前を紹介すると、皆で拍手し讃えてくれ、児童達の素直さと他の人を敬う気持ちに感心させられた。

二つ目の競技ボール送りリレーは初体験の児童が多かったと思うが、きちんとルールを理解して且つ真剣に競技に取り組んでいた。また、同じチームの仲間を応援している姿が見られたことも良かったと思う。

三つ目の競技サイコロスプーンリレーは、サイコロの出た目により走る距離を決めることで運動能力に加え運の良さを加味する工夫を入れた。スプーンにピンポン玉を乗せて運ぶのだが落とさないように走るのはとても難しく、慎重にピンポン玉を落とさないようにゆっくり歩く児童から、落としながらも走るスピードを重視する児童まで、各々個性があり、見ている側も楽しめた。

最後の旭地区クイズでは、『旭小があった場所は昔は海だったか』など旭地区に関連するクイズを実施したが、一番盛り上がったのは、『校長先生の一番の好物はプリンである』であった。身近な人に関するクイズが楽しいようだ。

今年度は参加者人数含めコロナ禍前の盛況さを取り戻すことができたので、次年度もレクリエーション競技を中心に新たな競技も検討して更に盛り上がる大会を計画していこうと思う。

最後に、総じて児童達が最初から閉会式まで楽しんでくれたことが何よりである。

また、校長先生、教頭先生、その他の先生方、学童指導員の方、また卒業生も協力頂き、地域全体で協力して実施ができたことがとても有意義であり、協力いただいた関係者の方々に感謝を申し上げたい。



## 総会 研修

総会 & 研修会が6月1日(土)午後には青少年会館にて開催されました。研修では、「パペットーク」をテーマに岩崎由純講師から1時間ほどお話をいただきました。出席した青指から「子どもたちとの活動の中でポジティブに声掛けができそうだ」と感想がありました。



### 👤 広報委員のつばやき

青少年指導員のメインイベントである子ども大会。今回お届けする4地区のほか、既に終了している地区、また、これから開催を予定している地区もあると思いますが、全地区が何事もなく無事に終了することをまず第一に願っています。私の城島地区も6月16日(日)に子ども大会として各種のレクリエーションを実施し、子どもたちや地域の方にも楽しんでもらいながら無事終了いたしました。ほっと一息をついた一週間後、城島地区の

前理事の訃報に接しました。昨年の子どもの大会では「猛獣狩りへ行こうよ〜♪」といった元気な声でレクリエーションの司会もこなしていた姿に思いを馳せつつ、長年、青少年指導員として、理事として地域に貢献し活躍されたことにあらためて敬意を表したいと思います。そして、受け取ったバトンの重さを痛感しつつ、同志とともにしっかりバトンをつないでいきたいです。

城島地区 川口隆史

### ■広報委員会

委員長 大和田マイ子(大原)  
委員 宮田憲太郎(花水)伊東多恵子(豊田)土屋裕之(神田)川口隆史(城島)村形伸一(金田)石井康仁(真土)田邊貴也(なでしこ)伊川真理(松延)  
事務局 高島正和(青少年課)米山賢汰(青少年課)